



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2019 3 月号
Vol.97
毎月1回発行(通巻97号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒101-0033 東京都千代田区神田岩本町4-14 神田平成ビル7F TEL.03-5296-1933 http://www.JMMPA.jp/

2019年「新春講演会」&「新春の集い」を盛大に開催

日本女医会会長の前田佳子氏が講演! 女性医師の視点から働き方改革の本質を説く



【右】「新春講演会」の冒頭であいさつした吉原健二代表理事
【左】医師の勤務状況と働き方改革について話す前田佳子氏

冒頭、あいさつに立った吉原健二代表理事は、平成の医療を振り返ったうえで、これからの30年はどうなるかと提起。「最も心配なのは生産年齢人口の急激な減少であり、生産性の向上が急務。医療の質を下げずに生産性を高めていくことが、これからの医療経営士が期待されている仕事で

一般社団法人日本医療経営実践協会は2月2日(土)、富士ソフトアキバプラザ(東京都千代田区)にて2019年「新春講演会」&「新春の集い」を開催した。第1部の新春講演会では、公益社団法人日本女医会会長の前田佳子氏が、「女性医師が考える『働き方改革とこれからの地域医療』」をテーマに登壇。第2部の新春の集いでは、全国各地から集結した医療経営士と協会関係者らが交流を深めた。

【第1部・新春講演会】

吉原健二代表理事が登壇
ポスト平成の医療を展望

あり、自覚と誇りを持って取り組んでほしい」とエールを送った(3面に全文掲載)。

医師の働き方改革には トップの意識改革が不可欠

続いて、公益社団法人日本女医会会長の前田佳子氏が「女性医師が考える『働き方改革とこれからの地域医療』」と題して講演した。

日本における女性医師の歴史を紹介したあと、医師の働き方改革について言及した。前田氏は医師の勤務状況について「女性医師が子育てをしながら働くのは厳しく、就業率の推移はM

字カーブになっている。キャリア中断の理由は出産70%、子育て40%で、復職をしたとしても元の職場に戻るケースは少なく、雇用形態もパートなどが増える」と分析。日本と諸外国の医師に対する労働時間規制や女性医師の割合の違いについても触れながら、状況改

善の必要性を訴えた。

さらに、女性医師のキャリア継続、休職後の復職支援を目的として2007年から09年に実施された九州大学病院での「女性医療人きらめきプロジェクト」の事例を紹介(同プロジェクトは10年から男性も含めた医師全体を対象として、「九州大学病院きらめきプロジェクト」に発展)。「医師のキャリア継続、復職支援には、トップの意識改革が最も重要となっている」と強調した。

【第2部・新春の集い】

医療経営士があいさつ
決意新たに目標を掲げる

第2部「新春の集い」では、小林利彦代表理事代行による主催者あいさつに続いて、関東支部支部長の安藤高夫氏が登壇。「医療機関を取り巻く環境が複雑化するなか、理事長や院長が経営の舵取りを行うのは難しい。医療経営士の活躍の



医師の働き方改革というテーマへの関心は高く、参加者は熱心に耳を傾けた

一日・短時間で実践力が身につく!
一般社団法人日本医療経営実践協会認定

2019年6月開講! 受講者募集中

医療経営士 実践研究講座

- 認定 一般社団法人日本医療経営実践協会
- 主催・運営 ヘルスケア経営学院
- 会場 ニッテン神田ビル3Fセミナールーム (東京都千代田区神田東松下町17)
- 定員 各講座35名
- 募集受付 2019年4月より開始(予定)

■入学金・受講料(税込)

「一日 特訓講座」(5~8時間程度、昼食付)	
入学金	医療経営士: 無料 / 一般: 1万円(2019年9月までは無料)
受講料	医療経営士: 4万円 / 一般: 5万円

「短時間 集中講座」(2~4時間程度)	
入学金	なし
受講料	医療経営士: 1万5,000円 / 一般: 2万円

※「一日 特訓講座」の受講者には修了証を発行します ※割引制度有

【お問い合わせ先】 株式会社日本医療企画 ヘルスケア経営学院事務局 ☎03-3258-2798



「新春の集い」開催前に行った記念撮影

場は多い」と期待を寄せた。次に、第7回「全国医療経営士実践研究大会」札幌大会で審査委員長を務めた協会参与の吉長成恭氏が「元号が変わっても、医療経営士の重要性はますます高まる」と活躍を祈念して、乾杯の発声を行った。

歓談を経て、社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市東部病院医事企画室長の金城悠貴氏、株式会社川原経営総合センター経営コンサルタント・ティンク部門の清水俊弘氏、医療法人SHIODA塩田病院看護部長の園村恭子氏、日本新薬株式会社菅

業本部主任の田中由貴氏、株式会社大塚製薬工場大宮支店大宮三課つくば担当係長の山見大史氏の5人が医療経営士を代表してあいさつした。

関東支部神奈川研究会の事務局長を務めている金城氏は、今年の研究大会の目標として①合宿企画の開催、②全国医療経営士実践研究大会の神奈川県への誘致——の2つを掲げ、「神奈川研究会のメンバーと



小林利彦代表理事代行 安藤高夫氏 吉長成恭氏 金城悠貴氏 清水俊弘氏



園村恭子氏 田中由貴氏 山見大史氏 網代祐介氏

もに実現に向けて取り組んでいく。皆様のご指導をいただきたい」と話した。在宅医療や訪問看護、介護老人保健施設などを対象にコンサルティングを行っている清水氏は「医療経営士になってまだ間もないが、皆さんと一緒に頑張って日本の医療業界を盛り上げていきたい」と抱負を語った。看護師である園村氏は、自院の現状を紹介したうえで、「今後は、院内で最も多くの職員を抱える看護部門のトップである看護部長が医療経営の支えになっていくことが不可欠。病院のなかから改革に取り組んでいき



「新春の集い」では医療経営士と協会関係者が交流を深めた

最後に、社会医療法人社団光仁会第一病院医療福祉連携室室長で医療経営士1級・医療経営指導士の網代祐介氏が中締めのおいさつ。「医療は究極のソーシャルビジネスで、持続可能性を維持しつつ社会貢献をすることが求められている。医療経営士が一致団結して課題解決に向けて取り組んでいきたい」と呼びかけ、盛況のうちに幕を閉じた。

医療経営指導士の網代氏一致団結を呼びかける

たい」と述べた。MRとして活動する田中氏は、「医療経営士としての学び・視点を活かして医師の働きやすい環境づくりや経営について助言できるMRを目指したい」と展望した。山見氏は今年目標として1級合格、研究会やセミナーへの積極的な参加、医療経営士同士の交流を掲げた。

撮影＝関口宏紀

医療経営士の参加も大歓迎！ 協力団体セミナーのご案内

第4回「全国栄養経営士のつどい」大阪大会

地域包括ケア時代が求める栄養経営士の役割と活動

～重症化予防から医療・介護の連携～

2019年 **3月10日**

- ▶ 日 時：2019年3月10日 10:00～16:40 (懇親会17:00～18:50)
- ▶ 会 場：国民會館 武藤記念ホール
[大阪市中央区大手前2-1-2 国民會館住友生命ビル12階]
- ▶ 参加料：栄養経営士・医療経営士5,000円 一般7,000円
※税込、事前登録の場合 ※懇親会別途5,000円

主なプログラム ※敬称略、プログラムは変更になる場合がございます

- 基調講演 “適塩活動”による重症化予防に向けた地域づくりと管理栄養士の役割
八田 告 (八田内科医院理事長・院長、近江八幡市立総合医療センター腎臓センター顧問)
- 特別講演 在宅療養サポートチーム(hST)のなかで求められる栄養部門の知識と役割
西山 順博 (西山医院院長)
- 栄養経営士による実践報告とパネルディスカッション
[座長] 山下 茂子、大谷 幸子、真壁 昇 (一般社団法人日本栄養経営実践協会理事)
- 多職種による特別ディスカッション「多職種連携のなかで求められる栄養経営士の新たな役割」
[座長] 吉田 貞夫 (一般社団法人日本栄養経営実践協会理事) [パネリスト] 看護師・薬剤師・作業療法士・管理栄養士

[主催] 一般社団法人日本栄養経営実践協会 事務局 ☎03-5289-7021 <http://www.nutrition-management.jp/gathering/>

詳細は → [栄養経営士 つどい](#) 検索

2019年「新春講演会」吉原健二代表理事あいさつ全文

医療の質と生産性の向上に向けて
協会と会員が一致団結して取り組もう!

あけましておめでとうございます。本年は、全国各地とも快晴に恵まれ、皆様よい新年をお迎えのことと思います。

本会は、2010年に設立されまして、今年で9年目に入ります。そして、わが国の医療に経営の概念を導入し、医療機関が抱える経営上の諸問題を迅速かつ適確に処理する能力をもった人材を「医療経営士」として養成するとともに、その方々のさらなる知識と能力の向上を図るための研修事業を行って参りました。

この間、医療経営士を1級、2級、3級に分け、全部で47回の資格認定試験を行って参りましたが、受験者はこれまで延べ4万人を超え、合格者は3級が1万5,949名、2級が1,426名、1級が65名と、延べ1万7,440名に達しております。そのうち、1万969名の方々が本会に加入、登録され、医療経営士として認定させて頂きました。そして、これらの方々は、医療機関をはじめ、医療関連企業、金融機関等、様々な職場で活躍されておられます。

医療経営士の方々に対する研修事業も全国の7つの地区に設置されました8つの支部の自主的事業として大変熱心に行われており、また本会と支部との共催で年1回、「全国医療経営士実践研究大会」を開催して参りました。昨年は、「新時代を切り拓く医療経営士の挑戦と創造——“顔”と“想い”の見える連携づくりを目指して」と題して札幌市で開催し、多くの成果を上げるなか、盛会裡に終えることができました。

このように本会が設立以来、順調に事業を推進し、成果を上げることができましたのは、ひとえにここにお集まりの皆様方のご指導、ご支援のお蔭と厚く御礼申し上げる次第です。

しかし、医療機関が抱える問題が多岐にわたり数限りなくあるのに対して、病院数が8,400あるなかで、医療機関で働く医療経営士の数はまだ1,600人程度にすぎません。病院に最低1人、できれば2人以上の医療経営士の方がおられるのが望ましいと考えれば、医療経営士の数はまだまだ増やしていかなければなりません。

また、研修や研究活動の一層の充実も図っていきたくと考えており、本会は本年6月より「医療経営士 実践研究講座」を開講する予定でございます。今後とも一層のご協力をお願い申し上げます。

ところで、今年で平成の時代が終わろうとしております。この平成の30年がわが国にとって、そして、わが国の医療にとってどのような時代であったかを振り返ってみたいと思うのであります。平成の時代はその名の通り、わが国にとっては、戦争のない平和な時代でありましたが、東日本大地震をはじめ、災害は多く、経済は停滞し、政治も民主党が政権をとるなど、混迷した時

代でありました。決していい時代であったとは言えないかもしれません。その中で人口の高齢化だけは平成の始めの12%から28%へ進み、65歳以上の人口は1,500万人から3,600万人へと倍以上に増えました。

そのため、医療、年金などの社会保障給付費も平成始めの約50兆円から120兆円へと2倍以上に膨らみました。医療費は20兆円から42兆円とこれも2倍以上に増えました。しかし、GDPは約450兆円から540兆円へと90兆円、2割程度増えたにすぎず、消費税が導入されたにもかかわらず、税収も50兆円程度でほぼ横ばいに推移する一方、国の借金は1,000兆円を超え、国の財政は悪化する一方でありました。

こうした中で診療報酬の面では、医療費の抑制策が進められ、制度の面では介護保険の創設や、老人保健制度を引き継いだ形で後期高齢者医療制度の創設、国保の運営主体の都道府県への移管などの制度改革が行われました。医療の供給体制についても、地域医療構想に基づき、医療機関の機能分化と相互連携を軸とした地域を単位とした包括的な供給体制への転換、構築が進められているのであります。

平成の次の時代は、医療にとってはどのような時代になるのでしょうか。人口高齢化のさらなる進行、特に一人あたり医療費の高い後期高齢者の数の増加に加え、iPS細胞による再生医療や遺伝子治療などの高度医療、高額医療の普及やオプジーボのような高価な新薬の開発などによって、医療費がさらに増え続けることは間違いありません。

しかし、何よりも私が一番心配なのは、生産年齢人口の急激な減少により、医療の分野にも深刻な人手不足の時代に入るのではないかとことです。生産年齢人口は、現在の約7,500万人が2040年には6,000万人程度と、1,500万人以上減少します。さらに、2060年には4,500万人程度と、何と3,000万人も減少します。

生産年齢人口には働いていない15～20歳の人も入りますから、実際に働いている就業者人口はこれより1,000万人近く少ないのです。もうすでに農業や建設業、小売業などには深刻な人手不足がおきており、そのために国は外国人労働者の受け入れを急ごうとしているわけです。AIやロボットの発達によって、ある程度人手不足を補うこともできるでしょうが、それらで足りるとはとうてい思えません。

生産年齢人口の減少がもたらすもう一つの心配は、働く人が減れば、余程、生産性が上がらない限り経済が成長しなくなる、GDPを増やすことが難しくなるということです。

政府は、技術革新などにより生産性を上昇させれば、今後とも実質1%ほどの経済の成長は

可能であるとして、2040年のGDPを約790兆円と見ていますが、果たしてそんなに増えるか、私は大変疑問に思っています。仮にGDPが減っていきまると、税収や保険料収入も減っていきます。そうすると、医療のみならず、年金などを含めて、2040年には医療と年金がそれぞれ約70兆円、全部で190兆円にもなると予想されている社会保障制度を維持することはとうていできません。

GDPを増やすにはどうすればよいかというと、まず、今働いていない女性や元気な高齢者に働いてもらうことと、産業のあらゆる分野で少しでも生産性を上げる努力をする以外にありません。医療の分野でも医療の質を損なうことなく生産性を上げることが最大の課題となるでしょう。効率的な医療とは、生産性の高い医療ということであり、医療経営士の方々のお仕事はその一言につきるといっても過言でないかと思えます。そのためにはどうしたらよいか、私どもも皆様とご一緒に今後、勉強と努力を続けていきたいと思えます。そして、皆様が誇りと使命感をもってお仕事ができるような条件整備、環境づくりにもしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

さて、この後、公益社団法人日本女医会会長の前田佳子先生から「女性医師が考える『働き方改革とこれからの地域医療』」と題してご講演を頂きます。

今、国は長時間労働の是正や同一労働、同一賃金などの実現を目的に働き方改革を進めており、昨年、労働基準法等について大きな改正を行いました。そして今、一般労働者の何倍もの医師の長時間労働、時間外勤務の是正等が問題になっております。

私は、救急への対応などから医師についてはある程度一般労働者とは違った時間外労働を認めざるを得ないし、女子については男子とはまた別の配慮が必要なのではないかと思っております。前田先生はどのようにお考えでしょうか。

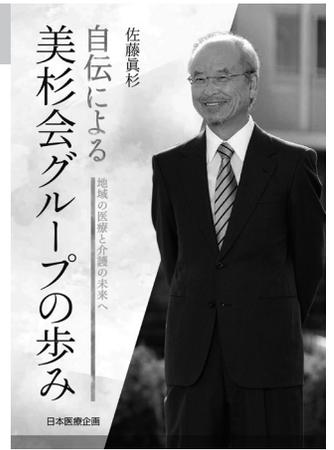
また、前田先生が女性医師であるからというわけではありませんが、私は医師という仕事、職業はどちらかといえば男子より女子に向いている、したがって先ほどの人手不足の問題もあり、優秀な女子の方にはこれからもっともっと医師になって活躍してもらいたいと思っております。そのようなことについても、前田先生がどのようにお考えか、ご意見をおきかせ頂ければ有難いと思えます。よろしく申し上げます。

最後にあらためて医療経営士をはじめ、皆様の本年のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、長時間になりましたが私のごあいさつとさせていただきます。

当協会の佐藤眞杉理事が新刊書籍を上梓！ぜひ、ご一読を！！

独自の地域包括ケアを展開する 美杉会グループの歩みを通して 医療経営の本質を学ぶ！

1979年の有床診療所開業に始まり、現在では職員2,000人を超える医療・介護グループに成長した美杉会グループ。40年にわたりその経営を率い、当協会の理事も務める佐藤眞杉氏が、書籍『自伝による美杉会グループの歩み』を上梓した。本書の内容を紹介する。



**自伝による
美杉会グループの歩み**
——地域の医療と介護の未来へ——

- 著者：佐藤眞杉
(社会医療法人美杉会理事長、
社会福祉法人美郷会理事長、
日本医療経営実践協会理事)
- 体裁：A5判・並製・272頁
- 定価：本体1,500円＋税
- 発行：日本医療企画

透明性の高い事業運営を 実践する経営手法

佐藤眞杉氏は、京都大学医学部を卒業後、同大学医学部研究室での研究活動、北野病院等での勤務医を経て、大阪府枚方市に外科診療所を開業。徐々に規模を拡大し、職員2,000人を超す医療・介護グループを形成するに至った。

「もともと、そろばん勘定は得意な方ではないし、家庭も会社員で商売の経験もない」という佐藤氏が、どのように美杉会グループを築き上げたのか。開業40周年を機に発行された本書では、法人設立や病院の新築移転など、経営に関連した主な出来事が、当時の想いとともにより詳細に語られる。

また、美杉会は開業当初から透明性の高い事業運営を重視している。給与体系はもちろん経営面に至るまで、公平でわかりやすいスタイルを貫いており、それを実践する佐藤氏の経営手法も垣間見ることが出来る。

地域住民の要望で築いた 地域包括ケアの先駆け

佐藤氏の人生の大きな転換点は、1979年の診療所開業にある。外科医だった佐藤氏は、有床診療所にこだわった。無担保・無資

本でいきなり有床診療所を建てるのは容易ではなく、銀行からは「まずは無床の診療所から始めては？」とアドバイスを受けた。しかし、いったん無床診療所を開業してしまつたら、それに安住してしまうのではないかと考え、あえて困難な道を選んだという。

患者本位の医療を実践することで地域住民から愛される診療所となり、増改築を繰り返しながら病院へと発展、1995年には医療法人美杉会を設立した。さらに、地域の要請にこたえる形で訪問診療や訪問看護にも着手し、患者が安心して在宅復帰できる場所の提供を考えていくうちに、介護事業も行うようになった。

いつしか、急性期病院を中心に、在宅や介護までを包括的に支える地域密着型産業としての美杉会グループが出来上がっていた。国の方針よりはるかに早く、独自の地域包括ケアシステムを完成させたのである。

佐藤氏の経営者人生をたどった本書には、少子高齢社会における医療経営のあり方や役割について、参考となる記述が随所に散りばめられている。医療経営士をはじめ、医療・介護に携わる方々に、ぜひお読みいただきたい一冊である。

日本医療経営実践協会 支部研究会スケジュール

開催日	開催支部	テーマ	講師
3月8日(金)	北海道	ヘルスケアマネジメント合同研究会 介護外国人材の現実と展望	小田弘氏(株式会社メディバス取締役事業本部長)
3月15日(金)	関東	第20回神奈川研究会 事務長に聞く！ 病院経営の課題と可能性	植田宏幸氏(社会医療法人財団石心会川崎幸病院事務部長、医療経営士3級) / 中村知明氏(社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷横浜病院事務部長、医療経営士3級)
3月16日(土)	東北	経営人材育成中村塾 in 東北	中村彰吾氏(公益社団法人医療・病院管理研究協会常任理事、日本医療経営実践協会参与) / 小野寺和清氏(医療法人徳会真壁病院経営企画室長兼医事課長、医療経営士1級)
3月16日(土)～17日(日)	九州	坪ゼミ合宿 in 長崎 現場で役立つ、科学的問題解決の考え方	坪茂典氏(社会医療法人愛仁会高槻地区事業統括部長、 社会福祉法人愛和会本部統括部長)
3月23日(土)	東海	経営人材育成中村塾 in 名古屋	中村彰吾氏(公益社団法人医療・病院管理研究協会常任理事、日本医療経営実践協会参与) / 稲葉明日香氏(医療法人社団友愛会経営企画室)
	関西	関西支部合同研究会 採用率が大幅に変わるノウハウと 戦略がわかる採用プランニング	西江順也氏(株式会社アイディーエイ ビジネスデザイン事業部部長) / 藤原彰人氏(株式会社アイディーエイ ビジネスデザイン事業部 アカウントプランナー)

※日程等は変更になる場合があります。詳細は協会ホームページでご確認ください。

助成総額上限1,000万円！ 新たに懸賞論文を創設

第2回(2019年度)「医療経営に関する研究助成」案件募集

1 懸賞論文「日本医療経営実践賞」

【公募締切】5月10日(当日消印有効)

- ▶ 募集内容 医療経営に関する論文でテーマは自由とする
※懸賞論文と指定課題研究の両方に応募することは可能だが、指定課題研究と同一テーマで応募することは不可
- ▶ 対象者 医療経営士および医療経営に携わる個人・グループ
- ▶ 懸賞金額 優秀な論文を表彰し、併せて賞金100万円を授与する

2 指定課題研究

【公募締切】3月31日

- ▶ 募集内容 ①第7次医療計画を踏まえた医療機関経営 ②医療の国際化
※①②いずれか1つの課題を選択。同時応募は不可
- ▶ 対象者 医療経営士および医療経営に携わる個人・グループ
- ▶ 助成金額 1件当たり50万円～250万円を予定(件数未定)
※指定課題研究助成と懸賞論文とを合わせて総額1,000万円を上限とする
- ▶ 助成研究期間 原則1年間(2019年6月1日～2020年5月31日)

【申請方法・詳細】必ず専用ホームページ(<http://www.jmmpa.jp/grant>)をご確認ください 【審査・選考】選考委員会において公正かつ慎重に審査し、採否を決定します

【お問い合わせ先】 一般社団法人日本医療経営実践協会「研究助成事務局」 ☎03-5296-1933